



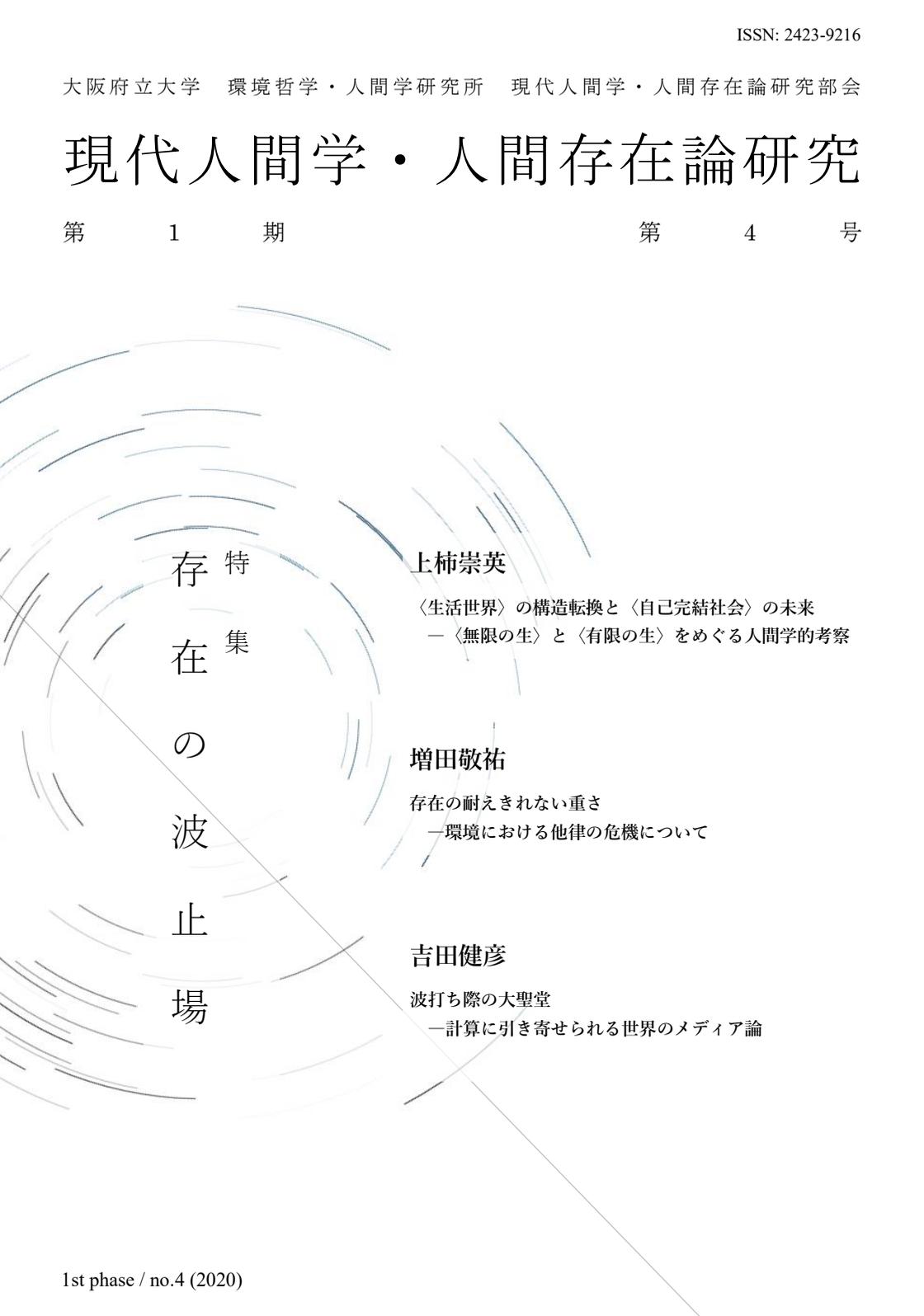
表紙・目次・『現代人間学・人間存在論研究』編集規程・執筆者・奥付・裏表紙

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-01-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/00017203">http://hdl.handle.net/10466/00017203</a>

# 現代人間学・人間存在論研究

第 1 期

第 4 号



特  
集  
の  
波  
止  
場

上柿崇英

〈生活世界〉の構造転換と〈自己完結社会〉の未来  
— 〈無限の生〉と〈有限の生〉をめぐる人間学的考察

増田敬祐

存在の耐えきれない重さ  
— 環境における他律の危機について

吉田健彦

波打ち際の大聖堂  
— 計算に引き寄せられる世界のメディア論

現代人間学・人間存在論研究

第 1 期 第 4 号

特 集

## 存在の波止場

大阪府立大学 環境哲学・人間学研究所

現代人間学・人間存在論研究会

『現代人間学・人間存在論研究』発刊によせて（再録）

1

『現代人間学・人間存在論研究』第四号のための序

上柿崇英  
増田敬祐

5

特集 存在の波止場

〈生活世界〉の構造転換と〈自己完結社会〉の未来

― 〈無限の生〉と〈有限の生〉をめぐる人間学的考察

上柿崇英

7

はじめに 1. 本論におけるこれまでの到達点 2. 〈生活世界〉の構造転換と

〈自己完結社会〉の成立 3. 人間の未来と〈有限の生〉 おわりに―筆を置

くにあたって 【補論】残された課題としての〈文化〉への問い

## 存在の耐えきれない重さ

増田敬祐

313

—環境における他律の危機について

- はじめに 1. 存在の耐えきれない重さ 2. 疎外と自律 3. 他律の危機  
おわりに

## 波打ち際の大聖堂

吉田健彦

379

—計算に引き寄せられる世界のメディア論

- はじめに—存在することへの不安 1. メディア技術の環境化 2. テクノデ  
モクラシー 3. 別様の在り方 おわりに—存在の波止場で

## 『現代人間学・人間存在論研究』第一期を終えるにあたって

上柿崇英

445

『現代人間学・人間存在論研究』編集規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪府立大学環境哲学・人間学研究所（以下、本研究所という）に所属する現代人間学・人間存在論研究部会（以下、本研究部会という）が刊行する『現代人間学・人間存在論研究』（以下、本誌という）の編集及び刊行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(刊行の目的)

第2条 本誌は、本研究部会における教育研究の推進および成果の公表を目的として刊行される。

(編集)

第3条 本誌の企画、原稿募集、編集、発行は、『現代人間学・人間存在論研究』編集委員会によって行われる。編集委員は、本研究所に所属する研究員のなかから選出されるものとする。

(掲載内容)

第4条 本誌には、特集論文、一般研究論文、研究ノートの欄を設ける。

2 特集論文では、執筆者による相互批評を行い、精度の向上を図る。一般研究論文および研究ノートでは、当該分野に精通した査読者によるピアレビューを実施する。その際の査読者の選任は編集委員会が行う。

3 ただし第一期については、特集論文のみとする。

(投稿資格)

第5条 本誌の投稿資格者は、以下の者とする。

(1) 本研究部会に所属の研究者

(2) 編集委員会が認めた者

(著作権)

第6条 本誌に掲載された著作物の著作権は執筆者に帰属するものとする。

附則

本規程は平成二九年三月三〇日から施行する。

附則

本規程は平成三一年三月三〇日から施行する。

## 執筆者

### 上柿 崇英 (博士 (学術))

一九八〇年生まれ、大阪府立大学現代システム科学域准教授

専門：環境哲学、総合人間学

主著：『環境哲学と人間学の架橋—現代社会における人間の解明』上柿崇英／尾関周二編、世織書房、二〇一五年、『自然といのちの尊さについて考える—エコ・フィロソフィとサステイナビリティ学の展開』竹村牧男／中川光弘監修、岩崎大／関陽子／増田敬祐編、ノンブル社、二〇一五年など。

### 増田 敬祐 (博士 (農学))

一九八〇年生まれ、大阪府立大学環境哲学・人間学研究所客員研究員、東京農業大学嘱託助教、東京農工大学非常勤講師

専門：環境倫理学、人間存在論

主著：『風土的環境倫理と現代社会—〈環境〉を生きる人間存在の在り方を問う』亀山純生監修／増田敬祐編集、農林統計出版、二〇二〇年、『自然といのちの尊さについて考える—エコ・フィロソフィとサステイナビリティ学の展開』竹村牧男／中川光弘監修、岩崎大／関陽子／増田敬祐編、ノンブル社、二〇一五年など。

### 吉田 健彦 (博士 (農学))

一九七三年生まれ、大阪府立大学環境哲学・人間学研究所客員研究員、東京農工大学非常勤講師

専門：メディア論、環境哲学

主著：『環境哲学と人間学の架橋—現代社会における人間の解明』上柿崇英／尾関周二編、世織書房、二〇一五年、「人新世をいかに語り得るのか—新たな地質年代におけるポスト人文学の可能性について」『環境思想・教育研究』第一二号、二〇一九年など。

『現代人間学・人間存在論研究』第一期 第四号

---

2020年11月30日 初版第一刷発行

ISSN : 2423-9216

発行 大阪府立大学 環境哲学・人間学研究所

現代人間学・人間存在論研究部会

装丁 吉田健彦

ISSN : 2423-9216

大阪府立大学 環境哲学・人間学研究所

現代人間学・人間存在論研究部会



現代人間学・人間存在論研究

第一 期

第 四 号